



①国民文化祭で上演される「花いくさ」の原作者である鬼塚忠さん ②「花いくさ」は、花の名手・池坊専好と茶の名人・千利休の美を追求するもの同士の友情物語 ③昨年12月に開催された「かのやフェスティバル」にて「花いくさ」をPR



昨年行われた高校生ミュージカル「ヒメとヒコ〜ある王の物語〜」の様子。宮園さんは、高校生最後の舞台上でヒメ役を演じ、持ち前の圧倒的な歌唱力で多くの観客を魅了しました。何百回と練習してきたシーンも、公演本番ではまったく違う景色に見え、キャストの顔も何倍も輝いて見えるそうです。

「花いくさ」は、鬼塚忠さんの原作を、地元出身の松永太郎さんが演

いつも思い出すのは故郷の温かさ

現在、私は国民文化祭の市民ミュージカル「花いくさ」のテーマソングや劇中歌を、鹿児島市内や東京で行われている楽曲披露目コンサートで歌わせていただいています。

たとは思っていません。それは、ヒメヒコに入って普通の高校生には経験できないことや、分からなかったことを本当にたくさん経験できたからです。鹿児島市の小さな街で、1人の高校生が一度に400人以上の人たちの目を奪うことはなかなかできないことだと思えます。ましてや涙を流してスタンディングオベーションをして貰える喜びを味わえたなんて本当に貴重な経験をさせていただいたと思っています。

出。そして鹿屋を始め県内の方々が公募で集まり出演するミュージカルです。

ヒメヒコで培ってきた経験を糧に、私にできることを最大限に活かしながら、地元で行われる国民文化祭というこのような大きなイベントに関わる事ができて、とても光栄に思います。

東京の大学に行き、慌ただしくも楽しい毎日を過ごしながら、私がいづつも思い出すのは故郷の温かさです。鹿児島の方々が力を合わせて作り上げるこの地元のミュージカル。皆さんにもまた故郷の素晴らしさを思い出して欲しいと思います。そして、国民文化祭をきっかけに、文化に携わる人が少しでも増えて欲しいと思います。



11月7日・8日の公演に向けて練習中!

市民ミュージカルの祭典を楽しむ

高校生が心から堂々と

# 劇

## プロフィール

宮園 唯 (19歳) *Yui Miyazono*  
 串良町出身。串良商業高校2年生時から「ヒメとヒコ〜ある王の物語〜」に出演。高校卒業後は、明治大学に進学。昨年は、持ち歌が西日本シロアリのCMソングや日本エアコミューターの機内BGMに起用。

「大隅だいすき!!」と叫べる素晴らしさ

平成19年度から続く高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」のノウハウを活かし、鹿児島県出身の作家 鬼塚忠氏による歴史小説『花いくさ』を「ヒメとヒコ」演出の松永太郎がミュージカル化。現在、国民文化祭事業「市民ミュージカルの祭典」として進行しています。出演キャストは広く県内から公募し、原作・演出・キャスト・裏方のすべてを「鹿児島人」で制作するオリジナルミュージカルです。11月の公演本番に向け、すでに稽古も開始されています。今回は昨年の「ヒメとヒコ」でヒメ役を演じ、現在は東京で音楽活動をする傍ら、花いくさにも出演する宮園唯さんにお話を伺いました。

涙を流してスタンディングオベーションをして貰える喜び

高校2年生の時に、腰の故障で中学から続けていたソフトテニスを辞め、高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」に参加しました。

ヒメヒコの練習は、当時週3回午後6時から9時までであり、公演前は毎日練習でした。そのため、学校帰りに稽古に行き、テスト期間中は練習が終わった後に、夜中まで勉強していました。大変でしたが、苦勞し